

## マックス株式会社 2023 年3月期第3四半期 決算説明会 質疑応答録

この質疑応答録は、2023 年 1 月 31 日（火）に開催したアナリスト、ファンドマネージャ向け決算説明会電話会議にて、ご参加の皆様からいただいた質問とその回答の概要です。

### ■インダストリアル機器部門について

〔質問 1〕

コンクリート構造物向け工具の第 3 四半期の売上実績を教えてください。

〔回答 1〕

コンクリート構造物向け工具の第 3 四半期（3 ヶ月間）の売上実績は、海外 5 7 億円、国内 1 4 億円となりました。国内・海外合計は 7 1 億円で 2 7 %の伸長です。

前年同期の実績は、海外 4 3 億円、国内 1 3 億円でしたので、海外は 3 2 %の伸長、国内は 9 %の伸長となりました。

機械と消耗品でみると、海外の機械は 2 5 %の伸長、消耗品は 3 9 %の伸長となりました。国内の機械は 1 6 %の伸長、消耗品は 9 %の伸長となりました。

数量ベースでは、北米は機械 1 %減、消耗品 1 3 %増、欧州は機械 8 %減、消耗品 1 4 %増、国内は機械 1 5 %、消耗品 6 %の増加となりました。

〔質問 2〕

海外機工品事業の通期計画を下方修正した理由について教えてください。

〔回答 2〕

第 4 四半期の想定為替レートを 1 ドル 1 3 5 円から 1 3 0 円に見直したことが主な理由です。

事業自体は堅調に推移しており、数量ベースでは大きな変更はありません。

### ■全社状況について

〔質問 3〕

第 3 四半期までの販管費増に含まれる為替換算差は 8 億円ですが、第 2 四半期までの実績を教えてください。

〔回答 3〕

第 2 四半期累計では 5 億 4 千 4 百万円発生しています。

〔質問 4〕

今後の荷発費の推移や、電力単価の上昇などインフレによる影響を教えてください。

〔回答 4〕

振り返ると荷発費は第 2 四半期がピークで、足元の第 3 四半期は状況が落ち着きました。第 4 四半期以降は、第 3 四半期の水準で推移することを想定しています。

また、電力単価の上昇による影響は、現状では大きくないと考えています。

〔質問 5〕

在庫未実現利益の為替影響の状況について教えてください。

〔回答 5〕

円安に推移した第 2 四半期累計では約 4.5 億円発生し、利益に対してマイナスの影響でした。第 3 四半期は足元で円高に推移した為替により、約 3 億円のプラス影響となりました。第 3 四半期累計では約 1.5 億円のマイナスの影響です。通期でみると損益への影響は小さいと想定しています。在庫未実現利益の為替影響は、決算説明会資料 5 ページの営業利益の増減要因において「数量増」に含まれており、売上総利益の増減に影響を与える要素となっています。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する内容は、当社が 2023 年 1 月 31 日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。